

小学校への「架け橋」

2月24日(金)、小学校へ行って、発表会で披露したダンスを見てもらいました。その前の週の17日(金)に、年長組の子どもたちが小学校を訪問して、2年生の授業を見せてもらったので、そのお礼に行くことにしたのです。年少組も一緒について行って、自慢のダンスを見てもらいました。

まず年長組が『ハロ ハロ』を踊り、次に年少組が『ジャンボリミッキー』を踊りました。幼稚園の子どもたちは、誰かに見てもらうのが大好きです。この日も「お客さん たくさんいる！」と大喜びです。

見ている2年生もみんな手拍子をして応援してくれます。途中からは6年生も見に来てくれました。6年生の女の子たちは「かわいい！かわいい！」と言いながら、大きな拍手をおくってくれていました。一緒になって手を振って踊ってくれる男の子もいました。こういう子の中から幼稚園の先生になる子が出たらいいなど、嬉しくなってしまうます。

最後に2年生の代表の子に、お礼の言葉を書いたカードを渡すと、2年生がこんな優しい言葉を返してくれました。

「4月の入学を楽しみにしています。」

「入学したら一緒に遊ぼうね。」

そして、2年の学年主任の先生には

「立派な卒園式になるよう祈っています。」

とお願いいただきました。

こういう言葉が、入学を前にした子どもたちにとっては、どんなにうれしく、そして安心につながるかわかりません。

帰るときに、2年生に握手をしてもらっている子もいました。年長組の女の子たちが、「どこの小学校行くの?」「私は、御山小。」などと楽しそうに話しています。そして、年少組の子どもたちも、少し気が早い気もしますが、「一年生になったら、一年生になったら・・・♪♪」と歌いながら、ご機嫌で幼稚園に帰ってきました。どの子も、小学校への期待を大きく膨らませたようです。

幼児期の教育の質を高めることが、子どもたちの小学校以降の学力や健康、そして将来の仕事や収入にまで良い影響を与えていると言われています。文部科学省は、令和4年度から『幼保小の架け橋プログラム』という「幼児教育を小学校教育へ円滑に接続し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)の教育を充実しよう」という事業を、積極的に推進しています。

今回のように、小学校の授業を見せてもらったり、小学生と交流したりといった具体的な活動を重ねていくことが、小学校への「架け橋」になるのだろうと思っています。

